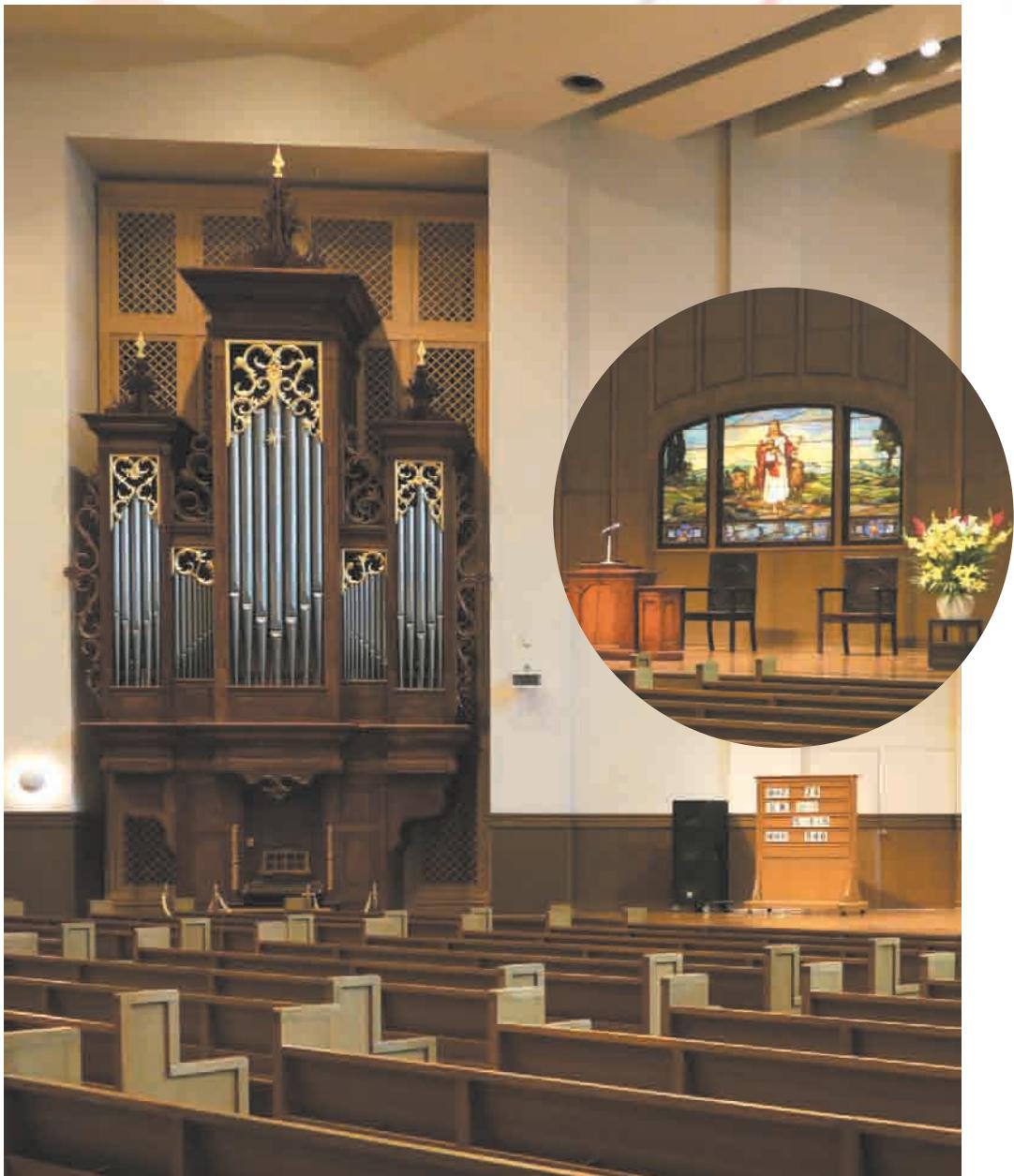




# フェリス女学院大学同窓会会報



カイパー記念講堂とパイプオルガン

《聖句》

「悪い実を結ぶ良い木はなく、また、良い実を結ぶ悪い木はない。」  
ルカによる福音書 6章43節

# 黄砂

学院理事長 小塩 節



今年は三月以来、日本全国が暗く不安に満ちた日々が続いている。思うようには被災された方々にお助けができなくて胸のつまり思いを皆様も抱いておいでだろう。この苦難をこの国が何とか乗り越えていくほしい。若い人たちの将来にこの願いはかかるつているだろう。そして主なる神の御導きを祈るや、切なるものがある。

ところで、そのようなときに愚痴めいて申しわけないのだが、今年の春も大気中に花粉ばかりか黄砂が舞い、目に見える放射能とちがつて過敏体質の私は鼻や目をモロにやられて閉口した。花粉症はアレルギー症の由だが、黄砂は中国大陸北西部の大砂漠から舞い上がる膨大な砂塵が天空をおおい、海を越えて日本にも及んで降ってくるのだ。砂粒だからアレルギー症よりも物理的な痛みが感じられる。黄色い砂塵なので黄砂とも黄沙ともいう。空が真っくらになる日もあった。今春も減りはしなかった。この黄砂が、スイス山中から流れ出てド

イツとフランスの間を流れる一、三三〇キロの大河ラインの流域にも大量に積もつてある。中流のライン・ワインの収穫が豊かなあたりや、下流のオランダに入るあたり。なんと実に十メートルもの厚さで積もつてある。いや、正確にいうと今のライン河ばかりでなく、その前身の大氷河がアルプス山中から削り出し、砂状に碎いた黄砂に、動植物などの物体が混じって肥沃な土を作り出している。ワインのものとブドウだけでなく、アスピラガスなどがよく育つ。この土壤を「黄砂」の土と人びとが呼んでいるので、私はアルプスから風が運んできたものかと思い違いをしていた。大河ラインが運んできて大河のわん曲線のあたりで沃土を積み重ねたとされる。単なる砂ではないという。

しかし最近の科学的な研究分析によるところ、たしかにただの岩石粉塵ではないから栄養分も高いのだが、なんとアフリカから地中海を渡りアルプス連峯を越えて、風に乗つて運ばれてきた「本当」の砂塵成分もあるという。それならばたしかに黄砂・黄沙と言つても間違はない。話は洋の東西の上に八メートルほど降り積もつてゐる火山灰（ローム層）と同じ成分が入つてゐるのではあるまいか。面白い関連ではないだろうか。



トとしての忙しい毎日でございます」（『フェリス女学院一〇〇年史』）と語っています。「つまり、一九二〇年代の半ばでは『For Others』はまだ一般化していかなかったのでしょうか。

一九三五年頃になると学校新聞『フェリス』に『For Others』をしばしば見出せるようになります。一九三五年五月二一日号で竹中治郎が「標語 For Others の実行者」という表現を用い、一九三六年五月二一日号には、坂本田鶴子が「本校の生徒方はフェリス魂を持っているのであります。『他人のために』と申す標語がそれであります」と語り、さらに、「一九三九年三月二三日号には林貞が『『他人のため』といふ学校の格言』という表現を残しています。したがつて、一九三〇年代後半には『For Others』が学内に定着していたことを予想できます。

ところで、故山永武雄元院長（在任期間一九五三年九月二三日号）は林貞が『『他人のため』といふ学校の格言』という表現を残しています。したがつて、一九六〇年代後半には『For Others』が学生の証言によれば、当時の生徒は誰でも、『For Others』とパウロの聖句が対で受けとめていたようですね。一九六四年度以降の『短期大学入学案内』にはその聖句が表紙の裏に印刷されており、山永武雄院長時代にパウロの聖句がいつしか『For Others』の典拠とされるようになったと思われます。

この半世紀生徒学生の心にパウロの言葉が刻み込まれたという実事を尊重した上で申しあげれば、『For Others』とパウロの聖句の結びつきの偶然偶々という側面には興味を覚えます。

# フェリスにおける "For Others" の歴史

学院長 大塩 武

# 困難な時にこそ

学長 宮坂 覚



東日本大震災で被災された方々にお見舞いを申し上げ、また被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。フェリスでも、人的に巻き込まれた方を含め、かなりの方の被災が報告されております。卒業生の二名の方が召されました。ご冥福をお祈りしたいと思います。在校生関係などでも被災は広範囲にわたり、被災地支援とともに、その支援に取り組んでいます。どうぞ覚えてお祈りください。

同窓会の皆様には、日ごろからお世話になり感謝申し上げます。特に、昨年の「F140コミュニケ」発信の際には大変お世話になりました。数ヵ国の人材直接の反応を含め多くの方々からお祝いと共感のメッセージが寄せられています。すでに述べたことですが、コミュニケーション発信は、M・キダ一をかしらに一四〇年にわたってフェリスの教育を紹ひできた先人たちに敬意を表するとともに、現代の関わるものが伝統を再確認し矜持を共有していくことであることを企図したものです。「伝統と革新」のフェリスの今後の営みの縁になることを希っています。

今年度は、「F140コミュニケ」を見据え、モットーである「For Others」をさらに具体化を求めて始動し始めました。そんな矢先、出鼻を挫かれる3・11大震災が起き、今もその対応は継続中で大きな課題の一つです。昨年の『会報』で、現代における歴史的感性と鳥瞰（俯瞰）的感性の欠如に触れました。3・11は、それを遠景化するような事柄でした。誤解を恐れずに言えば、パラダイム・シフト（既成の規範や価値観の変換）を歴史に強いるレベルでした。十年単位で問われるほど歴史的出来事とも言えます。

3・11は、他者への関わり方に変化をもたらし、個々の生活感、生活環境に対する価値観の変換をもたらすでしょう。一人ひとりが、生きることの意味を問われることになります。3・11直後から「できることはないか」「何かしなければならない」のその思いは、国内外からの多額な義捐金、グローバルなボランティア活動などとなって持続しています。天災と人の知恵が関わる原発問題にみる人災の複合的な問題を抱え込んだ混乱は、数年続くでしょうが、確実に人の世界に変換（パラダイム・シフト）をもたらすでしょう。

いま、「あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」（コリント信徒への手紙／10章13節）を心に留めたいと思います。困難な時、混迷な状況だからこそ、明日への夢と希望を抱き、他人者と共に共生することが、フェリス人の思いでもあると信じます。

# 「退任のご挨拶」

前学院長 岡野 昌雄



早いもので、フェリスに来て八年が過ぎました。それまでまったく関係がなかつたのに、しかも仕事嫌いの怠け者が、どうしてこのような役目を引き受けたのか、未だに謎です。皆さんの母校である学院に大きな迷惑をかけたのではないかと思いますので、はじめにお詫びしておきます。

フェリスはどんな学校で、自分は何をしたら良いのか、何ができるのか、不安に満ちた出発でしたが、先入見が全くなかつたのがかえって良かったように思います。学院の歴史を読み、いろいろな人と出会い、フェリスはこういう学校なのだ、あるいはこうあつてほしい、そんな自分なりのイメージがだんだんと形づくられました。特に同窓生の皆さんとの交流は大変に有益で、また楽しいものでした。経験というのは、時の経過とともに成長しながらその意味が明らかになつて来るのですから、学院の教育は、今の学生たちばかりではなく卒業生たちを通して、その内実が見えてくるように思います。明るくのびやかで、積極的な皆さんの生き方は、この学院で培われたものでしょう。

これからは余生とは言えないほど長い人生が退職後も続きます。学校での学びも、職業生活での経験もすべて、一人ひとりに与えられたかけがえのない人生をどのように生きて命の贈り主に応えるか、その問いを誠実に生き抜くためだと思います。その意味で、現在の学生や教職員による活動ばかりでなく、卒業生たちがどのような生き方をするかが反映されて、学校の伝統を形づくるのだと思います。同窓生の皆さんの美しい生き方、それが学院を生き生きと生かすのです。八年間有難うございました。

して、その内実が見えてくるように思います。明るくのびやかで、積極的な皆さんの生き方は、この学院で培われたものでしょう。

# 第九回合同総会 中止について

このたびの「東日本大震災」で被害に遭われた皆様にお見舞を申し上げますとともに、亡くなられた皆さまのご冥福をお祈り申し上げたいと思います。

地震発生後、大学は三月三十一日迄学内の安全確保及び点検等を行うため、学内立ち入り禁止の措置を行いました。

それに伴い、卒業演奏会、卒業式が中止となりました。

四月、新年度を迎えて、余震、計画停電等諸般の事情に鑑み、大学は入学式を中止致しました。授業の開始も大幅に遅らせました。そのような中で、同窓会として合同で総会を行うことは困難と判断し、中止させていただきました。同窓生の皆さまにはご理解を賜ります様、お願い申し上げます。

なお、Fグループは、総会のご案内をお送りした後でございましたので、予定通り開催いたしました。

\* 来年は、四月三十日(月)を予定しております。

## 第27回 りてら総会・中止

今年4月29日に予定されていた総会は震災の影響で急遽中止とさせていただき、会員の皆さまには震災お見舞いと総会中止のはがきをお送りしました。

りてらの運営に関する議事決定は、学年幹事会が担当しております。

毎年、総会前の学年幹事会で、前年度の事業報告・決算、今年度の事業計画・予算の承認を受け、新年度の活動が始まります。

本年も4月29日(土)に緑園キャンパス大

会議室で学年幹事会が開催され、種々の問題について率直なご意見を伺いました。特に減少する収入(終身会費納入率の低下)と、郵

送費などの経費の増大については、多くのご提案が出され、終身会費だけでの運営見直し

の必要性について、貴重な提言をいたしました。

その結果、会員の皆さまから賛同を得承認されました。

今回、書面評決となつた事で、今まで総

会にご参加が叶わなかつた方にも資料をお届けし、りべるての活動をお知らせする事が出来ました。皆様からの返信には、ご自身の近況、同窓会に対するご意見の他、「りべるて奨学金」創設について、多くの方々

がその主旨をご理解頂き、心の想いを記して下さいました。同窓生の「糸」を、後輩へと繋ぐ大切な役割を頂いたと感謝申しあげます。

私達りべるて役員一同は、皆様の母校への想いを大切に、今後も「Fエリスの風」を発信し続けて

行きたいと願つております。

感謝と共にご報告いたします。

(報告 羽田 明美・79J)



昨秋の学年幹事会の様子

## 第22回 りべるて総会・中止

東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申しあげます。

4月29日に予定されておりました総会は、震災に伴う授業日程の変更や交通機関の状況を鑑み、書面評決となりました。

発送数四、六五〇通うち返送一、一一六通。第1号議案から第7号議案について

ご審議頂き、全ての議案において会則の基準を満たすご賛同を得承認されました。

今回、書面評決となつた事で、今まで総会にご参加が叶わなかつた方にも資料をお届けし、りべるての活動をお知らせする事が出来ました。皆様からの返信には、ご自身の近況、同窓会に対するご意見の他、「りべるて奨学金」創設について、多くの方々

がその主旨をご理解頂き、心の想いを記して下さいました。同窓生の「糸」を、後輩へと繋ぐ大切な役割を頂いたと感謝申しあげます。

感謝と共にご報告いたします。

Fグループは4月29日に個別総会を開催いたしました。

山手キャンパス5号館541教室に、大塙部長はじめ9名の来賓の方々をお迎えし、100名近くの同窓生が集いました。

総会は熊谷会長の挨拶、藏田音楽学部長による挨拶から始まりました。議事に入り、10年度会計報告・会計監査報告・11年度予算案、10年度活動報告、11年度活動予定がそれぞれ承認されました。

来賓の大塙学院長、宮坂大学長からご挨拶をいたしました。その後、各支部からの報告、小松田事務局長からご挨拶、そして立神先生、宮本先生、細川先生から大学の近況ををお話しいただき、懇親会となりました。

今年は音楽学部の60回の卒業生を迎える記念の年でしたので、3回生から60回生まで世代を越えて母校への思いを胸に、素敵な一時を過ごしました。

たくさんの方のご協力によつて総会が開催できましたことに感謝いたしました。

(報告 岩江真理子・D51)



## Fグループ総会

本年は大学合同総会は中止となりましたが、Fグループは4月29日に個別総会を開催いたしました。

山手キャンパス5号館541教室に、大塙部長はじめ9名の来賓の方々をお迎えし、100名近くの同窓生が集いました。

総会は熊谷会長の挨拶、藏田音楽学部長による挨拶から始まりました。議事に入り、10年度会計報告・会計監査報告・11年度予算案、10年度活動報告、11年度活動予定がそれぞれ承認されました。

来賓の大塙学院長、宮坂大学長からご挨拶をいたしました。その後、各支部からの報告、小松田事務局長からご挨拶、そして立神先生、宮本先生、細川先生から大学の近況ををお話しいただき、懇親会となりました。

今年は音楽学部の60回の卒業生を迎える記念の年でしたので、3回生から60回生まで世代を越えて母校への思いを胸に、素敵な一時を過ごしました。

たくさんの方のご協力によつて総会が開催できましたことに感謝いたしました。

(報告 金出地佳代・55回)



# 創立140周年記念 クリスマス礼拝

学院創立一四〇周年を記念して、二〇一〇年二月二八日（土）、パシフィコ横浜国際大ホールに於てクリスマス礼拝が開催されました。中高の生徒、大学の学生、保護者、保証人、同窓生、教職員、理事など四〇〇〇名以上が参加いたしました。

大学三同窓会は毎年、白菊会と合同でクリスマス礼拝を行っておりましたが、今回は、学院と共にクリスマスをお祝しました。

司式は中高宗教主事の野田美由紀先生、奏楽は中高オルガニストの大浦邦子先生でした。

小塩節理事長の、フェリスに連なるすべての皆さまクリスマスおめでとうとのお祝いの言葉ではじめました。そして小塩先生は次のようにおつしゃいました。フェリスは、先人達の高い志と祈りによって建てられ、手から手へ、時代から時代へ、次から次に繋げられ、私達に伝えられ、次の世代へと連なつて行くでしょう。一四〇周年の歴史の中で、平和な時も困難な時も、多くの方々によって支えられてきました。その中で自然に伝えられたモットーがFor Othersなのです。それこそが、私達の誇りであり、喜びです。ここに創立一四〇周年の感謝の時を持つことができました。感謝と賛美の声を天に上げました。



「学院をお支えくださる皆様へ」

\* 学院HP <http://www.ferris.jp>

\* e-mail : hsoumu@ferris.ac.jp

【お問い合わせ・資料請求先】  
フェリス女学院本部事務局  
総合業務課 維持協力会担当

TEL：〇四五—六二二—四五一

FAX：〇四五—六五一一四六三〇

四一、七三三、三七六円

● 二〇一〇年度寄付金実績  
大学部会積立残高累計  
二六、七九三、六六七円  
\* 内訳 大学部会八、二七五、四一二円  
中高部会一八、五一八、二五五円  
● 二〇一一年三月末現在  
大学部会積立残高累計  
二六、七九三、六六七円  
\* 内訳 大学部会八、二七五、四一二円  
中高部会一八、五一八、二五五円  
四一、七三三、三七六円

学院創立一四〇周年を記念して、

音色が響き渡り、心が洗われる思いで

通じるお話をしたのです。ですから私

達は、命を大切に生き抜くことができ

安定期化をはかるため設立した組織です。在

学生の保証人の方々、同窓会、卒業生のみ

なさま、一般有志の方、企業など、三二、〇

〇〇名を超える会員様からご支援をいただ

いています。

一四〇周年記念の年でもあり、同窓会、

保護者、保証人、卒業生、元教職員等多く

の方から温かいお気持ちをお寄せいただき、

寄付金額は二六、七九三、六六七円、達

成率六七・〇%となりました。改めて厚く

御礼申し上げます。引き続き、生徒たちの

教育環境充実のためにご支援くださるよう

お願いいたします。

ご協力いただいた寄付金は、大学キャン

パス施設設備拡充の将来計画実現に向けて、

【第2号基本基金引当資産】に積み立てており

ます。

この協力金は、大学キャン

パス施設設備拡充の将来計画実現に向けて、

【第2号基本基金引当資産】に積み立てており

ます。

この協力金は、大学キャン

パス施設設備拡充の将来計画実現に向けて、

【第2号基本基金引当資産】に積み立てており

ます。

この協力金は、大学キャン

パス施設設備拡充の将来計画実現に向けて、

【第2号基本基金引当資産】に積み立てており

ます。

この協力金は、大学キャン

パス施設設備拡充の将来計画実現に向けて、

【第2号基本基金引当資産】に積み立てしており

ます。

この協力金は、大学キャン

パス施設設備拡



## りてら会員の皆さまへ

会長 小澤 美智子（70）

今年も同窓会会報をお届けする季節となりました。昨年就任のご挨拶をさせて頂いてから、あつという間の一年でした。会員の皆さん、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。三月十一日の悲しい出来事により被災された会員の皆さんに、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。清々しい新緑の時期に会報の準備が始まりましたが、お手元に届く頃被災地の復旧はどれほど進んでいるでしょうか。暑い日々、ご健康を保たれまますようにお祈りいたしております。

お見舞いカードでお知らせしました通り、震災後、大学の諸行事は中止となり、構内への立ち入り禁止に伴い準備不足が懸念されたため、残念ながら総会を中止といたしました。せひ来年の総会には、多數の方々にご参加いただけますようお待ちしております。

りてらは今年、新たに五十五名の新会員をお迎えし、会員数二六、三八一名となりました。

同窓会の大重要な仕事は、会員名簿の維持と保守であると考えております。卒業後の大学からのお知らせは、全てりてらを通してとなります。りてらからのお知らせを始め、同期

会やクラス会などの開催お知らせの住所確認のためにも、住所のご変更は早めにお届けくださいますようお願いいたします。

また、ご存知のように同窓会の運営資金は、入学時にお預かりする終身会費で賄われております。退学された場合には、ご返金しております。今年度は震災の影響もあるかとは思いますが、会費の納入が激減しております。数年前より毎年の会費だけでは立ち行かない状況は把握されておりましたので、一番経費の掛かる通信費（会報発送など）の節減のため、送付方法を変更いたしました。が、会員数の増加に伴い、会費収入だけでは大学への施設・設備資金や奨学生などのご寄付も、今まで通りには出来なくなるおそれが現実になろうとしています。

そのため、今年度秋に開催される第二回学年幹事会において、会員の皆さんに任意での『通信費』のご協力をお願いする提案の準備をしております。りてらも近い将来、会費徴収方法の根本的改革が必要になることと思われます。

今年も『ちいさな旅くらぶ』『大学同窓会合同クリスマス礼拝』を実施予定です。ご参加をお待ちしております。オリジナルグッズ販売にも、ご協力くださいませ。売り上げは、大学に寄付させていただいております。

楽しい同窓会を目指しております。二年目の今年は少しうどりを持つて運営にあたることが出来たらと思つております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## りてらオリジナルグッズのご紹介

<p>●シルバーオオノ製 純銀オリジナルプレート ネックレス・ブレスレット・ ストラップ三様に使えます。 (水色・ピンク・茶・オレンジ) 各8,000円</p>	<p>●スパイラルボールペン &amp; シャープペン (グリーン・ブルー・ピンク) 各600円</p>	<p>●マルチボールペン (ボールペン黒青緑赤 &amp; シャープペン) 1,000円</p>	<p>●ボールペン &amp; シャープペン (ピンク・水色・青) 各100円</p>
<p>●お申し込み・ お問い合わせは りてら同窓会室まで ●送料はご負担ください TEL. 045-812-8692 FAX. 045-814-8966 *火・木曜開室 (大学休暇中は閉室)</p>	<p>●クリアファイル 3枚セット 300円</p>	<p>●一筆箋 250円</p>	<p>●マルチクリーナー (眼鏡・携帯拭き) 各500円</p>

# 時代を生きる



副学長 大野 英一郎

私たちたちは誰もが、自分の人生の時をはかり、時代を眺める定点、あるいは物差しのようなものを持つているのではないかでしようか。その定点や物差しは世代によって異なるので、同じ時代を生きている、眼にする時代の風景は世代ごとに異なるようになります。

教員を統けていると、当然のことながら、次第に学生との年齢が離れていきます。いまや在学生は平成生まれとなりました。今年の一年生はほとんどが平成四年、西暦一九九二年の生まれです。つまり彼女たちが生まれた時点では、すでにベルリンの壁は崩壊しており、ソビエト連邦は解体し、バブル経済も終焉してしまった。その後の二〇年間が日本にとって失われた時代であったことは、政治や経済の面から異論のないところでしょう。若者の就職難などは相変わらず深刻です。しかし私のように高度成長期に育つた人間からすると、この二〇年間は物質的生活の面では案外安定的で、それなりに充足した時代であったかとも思われます。

多くの人はインターネットが使えた時のことでした。物心ついた頃にはワープロからパソコンへの進化も完了していました。私のような世代からすれば、彼女たちが育った時代の技術は考えられないほどに進歩し、生活水準も向上していたとの印象です。東京ディズニーランドは一九八三年に開業しました。したがって今の学生にとってミッキーマウスとは、ウォルト・ディズニーの創作であるよりは、東京ディズニーランドのキャラクターの一つであるとのことでした。

今年の東日本大震災と、それに続く一連の混乱は、私たちの社会と生活の存立に対し大きな衝撃を与えてきました。おそらくこの災害は現代に生きている私たち全員にとって、いわば世代横断的で、時代を画する出来事になつたのではあります。

11月6・7日の両日、緑園キャンパスで大学祭が開催され私たち「りてらカフエ」として参加し、薫り高いコーヒー・紅茶を楽しんでいただきました。カフエと、同窓生の手作り品展示販売をしました。

すてきなお作品の数々が出品され、その売り上げの一部とカフエの売り上げ全額とを合わせて、大学に寄付させていただきました。

条件の良い場所ではなかつたので大盛況となりました。今年の大学祭には「大学ホームカミングデイ」のお手伝いをするために、りてらは参加いたしませんが、例年通りに緑園キャンパスで11月5日(土)・6日(日)に開催されます。

くらぶにご加入いただいた会員の皆さまと11月25日、秋の鎌倉を楽しんでもまいりました。昨年の会報で紹介した鎌倉市川喜多映画記念館・鶴岡八幡宮を訪問。

鎌倉野菜をふんだんに採り入れたイタリアン・ランチを頂きながら、初対面の先輩後輩方と大学時代から現在のことまで多岐にわたる会話を、それぞれのテーブルで楽しんでいただきました。

同じ大学で学んだ…というだけで、すぐに打ち解けられる不思議は「りてらマジック」でしょうか。



## りてらカフエ（大学祭）

## 小さな旅くらぶ（鎌倉散歩）

### りてら 2010年度決算報告

(2010年4月1日～2011年3月31日)

#### ●収入の部(円)

科 目	決 算
終身会費	9,180,000
預金利息	74,337
取入小計	9,254,337
前年度繰越金	36,679,143
取入合計	45,933,480

#### ●支出の部(円)

科 目	決 算
事務消耗品	199,031
印刷費	685,627
会報費	2,092,050
会員会報費	768,611
会員会報費	196,682
会員会報費	726,667
会員会報費	346,030
会員会報費	12,457
会員会報費	318,525
会員会報費	78,170
会員会報費	780,350
会員会報費	80,431
会員会報費	29,660
会員会報費	20,191
会員会報費	133,282
会員会報費	2,061,135
会員会報費	765,869
会員会報費	70,000
会員会報費	2,130
会員会報費	27,640
支 出 合 計	9,394,538
次 年 度 繰 越 金	36,538,942
合 計	45,933,480

# 同窓生だより 追悼 金子（旧姓小池）いづみさん

**金子 いづみさんを偲んで**

早川 芳子（元大学事務部次長兼海外交流課長）

この追悼文を書くのは余りにも重く、悲しい  
ものです。震災翌日に悲報を知り、驚きました。

金子さんは母校を愛し、後輩に様々な足跡を残  
しました。後輩に就職のアドバイスをする『有

職者の会』の初代代表として『尽力いただき、  
時には大学祭での『スロバキアワインの紹介と

大使夫人の講演会』は好評でした。

ヨーロッパで日本語教育が行われている大学と  
の協定を模索しているときに、コメンスキー大学

の紹介を受けました。この大学は日本語教育の盛

んな欧州の中心的伝統校で、協定が結べたことは、

フエリスの海外交流の大きな前進となりました。

笑顔を絶やさず 穏やかで前向きに行動するお姿  
は、多くの人に『人の交流の大しさ』の一種を時  
かれました。必ず大きな花が咲くと思います。ぜひ  
この大きな花を天国で見てください。地上での  
お別れは辛く悲しいです。天国でお会いしましょう。

愛する方を失い、深い悲しみの中にある御家族

の上にも神様の慰めをお祈りいたします。

**いづみとたまみ**

小池 たまみ（83E）

**の思い出**  
戸塚 木美（83E）

1983年卒業式

左いづみさん 右妹たまみさん



1983年卒業式  
左いづみさん 右妹たまみさん



2011年3月5日  
フェリスの友人と。左端がいづみさん



2011年3月9日 カフェにて

姉いづみと私は一つ違い、お互に励まし刺激  
し合うまさに親友のような関係でした。いづみ  
は国文科に私は英文科に一九七九年に同時に入  
学しました。クラブ活動ではいづみはESSに入  
部し、またKUEL（関東学生英語会連盟）

にも所属して他校の学生達とも交流していました。  
KUELの夏合宿で当時のチェコスロバキ

アからの留学生と出会い、それが後年のスロバ  
キアと日本の文化交流へと繋がっていきます。  
ゼミは宮坂先生に教授願いました。いづみは卒業後、商社に就職し、支社の業務のコ  
ンピュータ化のためオーストラリアに赴任します。  
帰国後に退社し、コンピュータを使った教育につ  
いて模索していきます。そして、一九九五年にコンビ  
ュータに関わる業務を主な内容とした会社を設立し

ます。一九九六にはスロバキアの芸術家の日本への  
紹介、一九九七年からは奈良県野迫川村とスロバキア  
の子供たちの交流をスタートさせています。

二年前から東京観光専門学校のフューチャーブ

ロデュース科で週一回P.C.実習講座を持たせてい  
ただき、その学校の三月一日の九段会館での卒

業式に出席し、天井崩落の犠牲になりました。

大勢の方々からいづみの冥福、そして私の声援  
をいただきました。皆さま方のお心遣いに心から感

謝申し上げます。被災されました多くの皆様、ご家

族の皆様に譲んで御見舞い申し上げたいと思いま  
す。

いづみちゃん、あなたはその名のとおりです。

泉の水が湧き出る所、その湧き出た美しい水は静  
かに流れ出しやがて小川になり河と合流して大海

へと導かれる…いづみちゃんのまわりにはいつも  
人が集まり、何か新しいことが始まり、その中心

にはいつもあなたがいました。皆に頼りにされ、  
慕われていました。まだまだやりたいことがたく  
さんあつたことでしょう。ただただ無念としか言  
えません。もつと一緒にいたかつた。もつと楽し  
い時間を共有したかった。いづみちゃん、どうぞ  
安らかに。心から冥福をお祈りいたします。

いづみちゃん、あなたはその名のとおりです。

東京の九段会館の崩落事故で親友の小池

の思い出出

戸塚 木美（83E）

1983年卒業式

左いづみさん 右妹たまみさん

身で会社を設立しパソコン教室を開催、老若男女、  
生徒さんたちはいづみ先生の親切な指導のもと、年  
賀状や写真集、カレンダーなどを楽しそうに作って  
いました。そしてそのグループの輪が広がり、新た  
にビーズ教室や和紙教室も誕生したのでした。また  
彼女はスロバキアに魅せられ、ミクシーではスロ  
バキア私設応援団としてその魅力をより多くの人  
にもっと伝えていきたい…と語っています。

いづみちゃん、あなたはその名のとおりです。

彼女はスロバキアに魅せられ、ミクシーではスロ  
バキア私設応援団としてその魅力をより多くの人  
にもっと伝えていきたい…と語っています。

いづみさんは女性の起業家として異業種  
交流会などに積極的に参加し注目され、当  
時のマッキンゼー社の大前研一氏が平成維  
新の会から国政に立候補する女性の候補者  
として、依頼したほど、仕事、政治と多方  
面における才能を發揮しておりました。  
また、アフリカの子供のフォスター・ペア  
レントとして支援をしていました。

彼女を思うと、建学の精神の『For  
Others』思い起こします。いづみさんの五  
十年あまりの短い人生は、「他の人のために、  
他の人とともに歩んできたのだと思います。  
いづみさん、たくさん愛をありがとうございました。  
あなたと過ごした楽しい思い出とど  
もに、素晴らしいあなたのことを、いつ  
までも忘れるはありません。どうか  
安らかに眠りにつかれますように、お祈  
り申しあげます。

いづみさん、たくさん愛をありがとうございました。  
ボルンに在住している妹のたまみさんから  
受け取り、言葉を失いました。

りてらアーカイブ 6

今回は大学開設からフェリスを見つめ、名誉教授になられた  
永田道子先生です。



永田道子先生

今年三月十一日、関東東北地方を襲った災害は、この地域に止まるだけでなく、広く私達の生活をも脅かし、復興までには気の遠くなるような時を要する灾害となりました。被災された方々およびご家族に心よりお見舞い申し上げますとともに被災地での復旧・復興活動に従事しておられる方々の安全とご健康を祈ります。

「皆さん、こんにちは」。私が授業を始める際、最初に心がけている言葉です。ですから、このコーナーに初登場しますのでやはり初めの言葉といたします。

大学は、一九六五年四月に開設されましたから今年三月で四十五周年となりました。そして私は大学開設と同時に「一般教育」の体育助手として着任しましたので同じく四十五年目となります。まだまだ人生を語るほどにはまいりませんがしかし、これまで生きてきた歳月のほとんどをフエリスで過ごしたことになります。日本体育大学体育学部を卒業と同時のその年四月に着任しましたので二十二歳になっ

教育・研究と育児を両立させるのは大変なことで  
したが、同僚の先生方の温かいご助言とお見守りが  
あって仕事を続けることができました。そのなかで特に忘れないのは「教職」責任者であり心理学  
者の井上恵美子先生の存在でした。当時先生の研究  
室は山手体育館の二階にありましたのでよくお会い  
しましたし、時には体育研究室で美味しいコーヒー  
をご一緒しながら楽しいお話をしていたときまし  
た。全国女子体育学会での研究発表の時は、お忙し  
いながら出席くださいました。緊張とともに先生の  
温かい励ましを感じたことを覚えています。そして  
ちょうどその頃、私は育児について少し悩んでいま  
したので、いろいろとお話を聞いていただきました。  
先生は包み込むような優しさでアドバイスしてください  
さり私の肩の力を抜いてくださいました。その時の  
アドバイスは、今でも大切に心にしまっています。

「皆さん、こんにちは」。私が授業を始める際、最初に心がけている言葉です。ですから、このコーナーに初登場しますのでやはり初めての言葉といたします。

太学は、一九六五年四月に開設されましたから今年三月で四十五周年となりました。そして私は太学開設と同時に「一般教育」の体育助手として着任し

たばかり、夢と希望を胸にそして気合い十分に教育・研究の場に飛び込みました。当時は文学部英文学科一、二年生、国文科一年生（現日本文学科）で始まりましたので、私と学生の皆さんとの歳の差は殆んどありません。ごくごく普通に学生と間違われました。『夢と希望と気合』に心は膨らんでいましたがなかなか学生気分は抜けませんでしたね。授業やクラブ活動の後、よく元町や港の見える丘公園等を散歩しながら乙女らしい夢に花を咲かせました。

このように卒業生のお嬢さん方を教える機会に恵まれた事、さらには幾人もの卒業生の方々と同僚として仕事ができた事に感謝しています。

「○さん、先生」と思わず声をかけ、手を取り合つたこともあります。今年度が始まつて数週間たつたある日、学生の一人が「母が学生時代、先生に体育を教わったそうです。」と親しく話しかけてきました。このように卒業生のお嬢さん方を教える機会に恵ま

山手体育館が建設されたので転々と学外施設での「借りぐらしの体育授業」は終わり、漸く充実した授業展開ができるようになりました。

餄と苦い餄を上手く使い分けながら……。  
**りてら 同窓会室**

体の特性を理解し、そして生涯に亘る健康を生活全体（身体運動、食生活、休養）を通して目指してほしいと願っています。

私の担当する科目は健康科学と、実技では球技系（バレーボール、テニス、ハンドミントン）、スキーやスキーです。そして運動生理学、スポーツ医学の分野から「女性のエクササイズパフォーマンス」という女性の性周期と体温調節との関係、それがパフォーマンスにどう関わるかというテーマで授業を担当しました。これは教養生活後半の研究テーマです。

A group of young people are gathered around a chain-link fence at a tennis court. One person in a light blue shirt is pointing towards the court. The scene is outdoors with trees in the background.

そして時々思いだしては自分を振り返っています。  
その井上先生は昨年十月にご他界されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

毎週火曜・木曜日 10時～16時  
(大学の春・夏・冬期休暇中は閉室)  
住所 横浜市泉区緑園四一五一三  
電話 フエリス女子学院大学内  
FAX ○四五二一四八九六六  
メールアドレス litela@uranus.dti.ne.jp

りてら同窓会室

開宗

住所

フェリス女学院大学内

FAX 電話

メ  
一

メ  
一

litela@uranus.dti.ne.jp

# りべるて

Vol. 23  
家政科同窓会

Vol. 23  
家政科同窓会

家政科同窓会

感謝とお願ひ

会長  
金子  
和惠



皆さま、いつもご挨拶の活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

三月一日に起きた東日本大震災は、私達の想像をはるかに越えた自然災害でした。被災された皆さまにお見舞を申し上げるとともに、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。さらに原子力発電所の事故は、目に見えない放射線が今後、次の世代も含め健康にどのような影響を及ぼすか心配です。

そのような中、今年も会報をお届け

さて、この一年の活動を振り返ります  
と、講習会に新しい方の参加が増えてい  
るようになります。懐かしく思って来て  
くださるので、とても嬉しいです。お一  
人でもどうぞお気軽にご参加ください。  
お待ちしております。

また、これから活動についても役員  
一同常に考えておりますが、会員の皆さ  
まからのご意見・ご要望等がございまし  
たら、お知らせください。

○名程です。結婚、転勤等で住所不明となられる方が多くいらっしゃいます。同窓会の一番重要な要素が住所管理です。どうぞこれからも転居等ございましたら同窓会室までお知らせください。また、お友達でりべるてからお手紙が届いていない方がいらっしゃいましたらお知らせください。宜しくお願ひいたします。

申し上げます。

ず、書面評決とさせていただきましたが、  
多くの方から”役員の皆さま、ありがとうございます”  
うござります“との一言を添えていただ  
きました。本当に皆さまの暖かいお心遣  
いに感謝申し上げます。



目  
錄

獎學金贈呈

去る五月二六日、家政科記念館に宮坂学長、秋山信義大学事務部長をお招きして、友井ゆり子先生と共に奨学金の目録を贈呈いたしました。

この様な社会情勢で、多くの学生が援助を待っているそうで、少しでもお役に立てる事を大変うれしく思っております。

学長からも感謝のお言葉をいただきました。

行事予定

- 十月八日(土)  
奥山先生を偲ぶ会  
十一月一日(水)・三日(木・祝)  
フェリス祭参加バザー  
十一月十日(木)  
友井先生お料理教室  
十二月十日(土)  
メリス同窓会  
クリスマス礼拜  
\*十一時～カイバー記念講堂  
二〇一二年  
一月十八日(水)  
大村先生ステンドグラス教室  
一月二六日(木)  
太保先生お菓子教室

会計監査	総務	会計	書記	副会長
浅見	岩江眞理子	鈴木近藤	佐藤石井	遠藤木美子
治美	三浦由里子	初枝誠子	昌子克子	北村周子
佑美	D 45	D 43	D 64	D 51

# 二〇一一年度総会に代わる書面評決について

四月二九日に予定しておりました総会は、異例ではありましたが、書面評決とさせていただきました。会則の第9章第28条(1)を適用させていただき、発送数四、六五〇通、返送数一、一六名（五月一九日）で、20%以上の主席者を以って成立了。

結果につきましては、別表をご覧いただきます様宜しくお願ひいたします。

第1号議案は二〇一〇年度事業報告です。毎月役員会とイベントの準備、それぞの役員の仕事等、毎週木曜日は記念館を開館して活動をしました。

第2号議案は二〇一〇年度りべるて基金運営費決算報告です。これは、家政科が閉じられた時、当時の先生方が同窓会の活動資金として一億円を基金として残してくださったので、その利息が主な収入となっています。

第4号議案は二〇一一年度事業計画案です。承認されましたので、事業は行われます。各種講習会にどうぞご参加ください。お待ちしております。

第5号議案は二〇一一年度予算案です。内容について少し説明をします。この予算は学

いては時間をかけ話し合わなければいけません。奨学生金については下記をお読みいただき、ご理解をいただきますようお願いいたします。

院管理の基金ですので、学院の科目に準じています。消耗品費にパソコンの導入を考えていますので予算化しています。記念館は学校施設ですので、工事等調整が必要で現在に至っています。旅費・交通費は、役員が活動するためのかかった実費です。前年より予算を決めていますが、多すぎるところご指摘が二通ありました。毎週木曜日の活動、役員会、他同窓会との交流等、役員には交通費実費が支払われます。通信・運搬費は、各種お知らせ等郵便料金です。印刷製本費は、会報、クリスマスカード等です。会議・会員費は、総会、催し物、会議等にかかる経費ですが、実際よりも多く予算を取っています。講習会費は、四つの同窓会で集める年会費です。涉外費は、慶弔費です。雑費は、どの項目にも当てはまらないものに使います。予算は学院会計に要望書を提出して認められますので、合計金額が重要です。今回の書面評決は予算化されていますが、年度末にこの合計約二七一萬円内に納められます。以上、解りにくいところもありますが、できるだけ節約をして活動しています。

申し上げます。

今回経費節減のためメール便を使いました。その結果、ラベル下のNo.が消えてしまい混乱を招いてしまいました。お詫び申し上げます。

月に幕を閉じてから三年が経ちます。近年学院や大学に、家政科が存在したことを見られない方も増えています。家政科で教鞭を取られた先生も現在大学ではお一人となりました。大学は緑園都市にあるため、山手で活動する私達とは距離があります。そこで、認知度を高めるために各種料理教室を企画しましたが、一時的な感は否めませんでした。

そこで、家政科の名前を残し、役に立てる事をと考えていましたところ、近年の経済状況から入学後家庭の事情により勉学を諦める学生が増えているとの話を聞きました。経済的理由で前途有為な後輩を救えないかと考えた時、これは家政科の卒業生が持つ思いやりの精神に通じるのではないかと考りました。りべるてがやがて、その活動に終止符を打つことは明らかのことですが、五五〇〇名の卒業生の思い出や母校に対する愛校心を大切にして“りべるて”の足跡を永く学院の歴史に留めるため「短期大学家政科同窓会りべるて奨学生金」を設立するものであります。皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

## りべるて奨学生金について

家政科が発展改組の名のもと一九八九年三月に幕を閉じてから三年が経ちます。

近年学院や大学に、家政科が存在したことを見られない方も増えています。家政科で教鞭を取られた先生も現在大学ではお一人となりました。大学は緑園都市にあるため、山手で活動する私達とは距離があります。そこで、認知度を高めるために各種料理教室を企画しましたが、一時的な感は否めませんでした。

そこで、家政科の名前を残し、役に立てる事をと考えていましたところ、近年の経済状況から入学後家庭の事情により勉学を諦める学生が増えているとの話を聞きました。経済的理由で前途有為な後輩を救えないかと考えた時、これは家政科の卒業生が持つ思いやりの精神に通じるのではないかと考りました。りべるてがやがて、その活動に終止符を打つことは明らかのことですが、五五〇〇名の卒業生の思い出や母校に対する愛校心を大切にして“りべるて”の足跡を永く学院の歴史に留めるため「短期大学家政科同窓会りべるて奨学生金」を設立するものであります。皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

\* 交通費（実費）を支給します。  
\* 昼食は各自ご用意いただきます。

## 役員募集

りべるてのお手伝いをしていただける方を募集いたします。

りべるての運営に貢献していただける方を募集いたします。

# 惜別 奥山 正夫 名誉教授

仲村（三宅）明子（D43）

私が初めて先生とお会いしたのは、家政科受験の日でした。試験の監督として教室に入られた時、何とダンディーな素敵なお入生でした。まさに「一目惚れ」状態でした。

入学し、新入生オリエンテーションのクラブ活動の紹介の際には、高井先生のオーバーヘッドの伴奏と共に素晴らしい歌声を聞かせて頂き、即刻コーラス部への入部を決めました。それからは毎月のように奥山先生と高井先生の同室の研究室へ「奥山ゼミ」の恋愛講座へ通いました。樂しい二年間でした。

一九九三年に同窓会でコーラスを組織しないか、という声がありOG会を中心にお山先生にご指導をお願いし「コレーリベル」を結成しました。毎月一回、家政科記念館で楽しく歌い、休憩のティータイム、終了後は全員でランチに繰り出すという楽しいコースが定着しました。「りべるて総会」で数回歌を発表する機会がありました。

二〇〇五年の夏頃から先生のご体調がすぐれず、二〇〇六年一月に脳腫瘍の手術を受け、三月の練習日には復帰されたのですが、ご病気が再発し、二〇〇七年秋には山



奥山先生を偲ぶ会  
（於家政科記念館）  
二〇一二年十月八日（土）十三時三十分・十五時  
お申し込みは、九月二十九日迄に「りべるてへ  
TEL・FAX ○四五・六六二・〇七五〇

二〇一二年三月十四日帰天 八九才



## 二号館見学会

一〇月二日（土）、懐かしい2号館の見学会を行いました。

2号館は昭和五〇年代まで家政科の授業で使われていました。朝早くから石段を登り息を切らせて教室に駆け込んだ方も多かつたのではないか。

お天気に恵まれた当日、二十二人が校門に集合しました。友井ゆり子先生とご一緒に校舎に入りました。現在は、本部の事務室と中高の特別教室、白菊会の同窓会室などに使われていますが、少し改修されており、先生も初めは戸惑つていらつしゃいましたが、次第に思い出され先頭に立つてお話をしてくださいました。螺旋階段がこんなに狭かつたからと感じたり、天井が低かったと改めて思つたりしながら進んで行きました。美術室として使われている教室の片隅で、何と短期大学家政科と書かれた物指しを何本か見つけました。

見学終了後は、家政科記念館に

場所を移し、昼食をいただきながら、楽しげなひと時を過ごしました。

また、当日は、当時家政科の事務室でお世話になりました小松田事務局長・秋山大学事務部長もご一緒にご案内くださいました。

そして、カイバー記念講堂に新しく設置されたパイオオルガンを見学させていただ

たと初めて伺いました。地下にある教室も、ミシンはこの向きにあつたと思い出した方もいらして賑やかな見学会となりました。

また、当日は、当時家政科の事務室でお世話になりました小松田事務局長・秋山大学事務部長もご一緒にご案内くださいました。

そして、カイバー記念講堂に新しく設置されたパイオオルガンを見学させていただ

たと初めて伺いました。地下にある教室も、ミシンはこの向きにあつたと思い出した方もいらして賑やかな見学会となりました。

また、当日は、当時家政科の事務室でお世話になりました小松田事務局長・秋山大学事務部長もご一緒にご案内くださいました。

そして、カイバー記念講堂に新しく設置されたパイオオルガンを見学させていただ

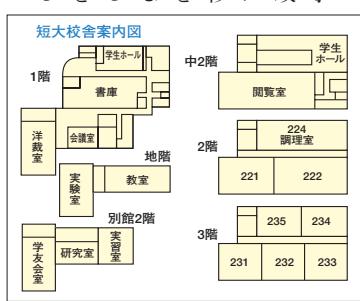
## 献品のお願い

フェリス祭バザーのためにご家庭で利用されない未使用の日用雑貨品や贈答品等がございましたら、献品くださますようお願い申上げます。尚、食料品、衣類は除外させていただきます。

●受付期間：十一月一日まで

毎週木曜日、午前十一時～午後三時

●受付場所：家政科記念館  
〒二三一八七九〇 横浜市中区山手六八  
家政科同窓会りべるて宛  
郵送・宅配便でお送りいただいても結構です。





## Fグループの皆さまへ

Fグループ会長 熊本美也子（17回）



3月11日の東日本大震災により被災された同窓生とそのご家族ご親族の皆様に心からお見舞いを申し上げます。本稿は5月に書いておりますが、皆様に会報が届くころには、この複合災害の復旧、復興が少しでも前に進み、人々が安心して暮らせる見通しが立っていることを願っています。

Fグループでは「案内申し上げた通り、4月29日に山手5号館541教室に於いて「Fグループ総会」を開催

## 心の時代のはじまりを

音楽学部長 藏田 雅之



大震災の影響で様々な学事が中止、延期されるなか、卒業生や在校生の強い希望で、震災の翌日開催される予定でしたメサイアが5月4日に震災の救済チャリティー公演として実施されました。また、一四〇周年事業として行われた、山手の丘コンクールも第2回が開催されることとなり、

この会報がみなさまのお手元に届く頃には全国7ヶ所の予選地で熱演がくりひろげられていることと思います。

物質文明の分岐点を提示したかにも思える原子力の問題は改めて、あらかじめ人間にそなわっていながら眠ってしまった心の世界への回帰をよびさましているようにも感じます。芸術が社会に果たすべき役割はこれまでになく大きくそこに音楽学部における教育の使命が深く関わっているように思います。皆様方のご支援をこころよりお願い申し上げます。

YOKOHAMA 山手の丘 音楽コンクール2011

フェリス女学院大学 フェリスホール

\*2011年11月3日㈭ ピアノ部門 11.5王 声楽・弦楽器・フルート部門

※2011年8月下旬より、会場：都市文化会館

入場料込価格￥2000 2012年1月9日㈪ 池袋：ウェリス女学院大学 フェリスホール

いたしました。震災のために卒業式も卒業演奏会も中止となつた新卒業生（60回生）5組9名によるフレッシュな演奏と作品発表を総会の中心に置き、大勢のご出席をいただき、和やかに執り行うことが出来ました。多方面からのほげまし、ご協力に心から感謝申し上げます。

また、秋に企画しております例年のジョイントコンサート（9／15）、研修会（10／7）、ティータイムコンサート（11／10）のチケット売り上げの一部を被災された同窓生のお役にたてるよう積み立てることに致しました。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

二〇一〇年度には夏から秋にかけてフェリス女学院創立一四〇周年記念クリスマス」がパシフィコ横浜国際大ホールに於いて催されました。フェリス女学院につなる四〇〇名を超える参加者の中、祈りと音楽による心に残るクリスマス礼拝でした。

最後になりましたが、Fグループは今春、学部・大学院あわせて一二〇名の新会員を迎える会員総数約三、七〇〇名となりました。これからも全国の同窓生と母校をつなぐパイプ役として元気に活動してまいりたいと思っております。どうぞ御指導、御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2010年度

# 音楽の贈り物

## ジョイントコンサート

10年9月23日 フェリスホール

生憎の  
お天気で  
したが、  
Fグルー  
ブジョイ  
ントコン  
サートを  
開催いたしました。

7組の同窓生をお迎えし、  
新卒生のヴァイオリン演奏で始まり、続く皆  
様もそれぞれ素敵な演奏を披露して下さいま  
した。特に今年はオルガンの演奏もあり、フ  
エリスらしいコンサートとなりました！

学生時代を過ごしたこの山手の丘でのコ  
ンサートに、出演者の方々からも懐かしい  
というお声を頂くと同時に、私たちの母校  
に長く受け継がれている音楽の尊さを毎年  
感ぜずにはいられません。特に短大時代の  
卒業生方々の演奏は、美しさの中にも濃ど  
した知性と品性を感じさせ、後に続く我々  
にとつて得難い指針を示して下さっている  
ような気がいたします。

今年はフェリスホールにて、9月15日  
(木) 18時30分開演です。ピアノ、声楽、  
二台ピアノによるコンサートです。ご来場  
お待ちしております。

(担当 海野美栄・44回)

## 研修会

10年10月29日 フェリスホール



◆ジョイントコンサート出演者募集

毎年9月予定のジョイントコンサート  
はFグループ会員、音楽学部関係者であ  
れば出演可能です。詳細は事務局までお  
問い合わせ下さい。（書類選考あり）

【10年度出演者】 \*森田千草（ヴァイオリン  
59回）・長澤由希（ピアノ伴奏59回） \*栗原  
明子（ピアノ独奏47回・院1回） \*宮川友美  
(ソプラノ独唱54回)・谷坂仁美（ピアノ伴  
奏54回・院8回） \*久保佐緒里（二台ピアノ  
51回・院5回）・池浦もと子（二台ピアノ  
院11回）・伊藤久加（ソプラノ独唱37回）・  
堀内陽子（ピアノ伴奏31回） \*増矢馨子（ピ  
アノ独奏38回）

## ティータイムコンサート

10年11月11日 山手6号館631教室

10月7日(金) 17:00開演

桑島さんはカンテレの指導や演奏会を開く傍ら、音楽療法士としても活躍なさっている多才な方です。

桑島さんは、日本ではまだなじみの少ない楽器ですが、日本ではまだなじみの少ない楽器のようとして、当日は桑島さんの奏てるカンテレの調べに癒されるひとときでした。

又、フィンランドでのいろいろなお話も交えながら、楽しいティータイムとなりました。



10年の研修会は「シユーベルトのお話と演  
奏」と題し辛島輝治先生をお迎えして行いま  
した。前半は奥様の辛島仔緒子先生との連弾  
曲と輝治先生のソロ曲、そしてシユーベルト  
についてのお話を頂き、後半は芳野靖夫先生  
をお迎えして輝治先生の伴奏で  
演奏がフェリスホール一杯に響き渡り大変豪  
華な研修会を無事終了することができました。

10日に16回生の熊取谷寿子さんをお招きし  
て、リコーダー演奏を予定しております。  
皆様のお申込みを、心よりお待ちしております。

(担当 中川佐和子・25回)



## Fグループ2011年度コンサートのご案内

### ジョイントコンサート

9月15日(木) 18:30開演  
於：フェリスホール ¥1,000

【出演】

声 楽：大澤 ゆかり(60回)、宮崎 陽子(60回)  
二 重 唱：吉竹 淑子・松田 千恵子(25回)  
ピアノソロ：久保井 明子(30回)、山本 香織(54回)  
二台ピアノ：三浦 晴美(53回・院7回)・齋藤 舞(56回)  
フルート：鈴木 みのり(60回)

### 研修会 ～デュエットの楽しみ～

10月7日(金) 17:00開演  
於：フェリスホール ¥1,000  
講師：朝倉 蒼生(ソプラノ)・辻 寿子(メゾ・ソプラノ)  
による演奏とお話  
高須 亜紀子(ピアノ伴奏・41回)

### ティータイムコンサート

11月10日(木) 14:00開演  
於：山手キャンパス6号館 ¥1,000(茶菓子付)  
熊取谷 寿子(16回)によるリコーダー演奏  
脇谷 敦子(ピアノ伴奏・32回)

《お問い合わせ・お申し込み》  
Fグループ事務局(木曜日 10時～17時)  
Tel & Fax : 045-681-6740





## 同窓会支部だより

### 東京支部

フェリス女学院同窓会東京支部、名称は硬いのですが、活動は柔らかく、会員の方々は四つの同窓会の境を越えて皆様和やかな雰囲気を楽しんで下さっています。名前の通り参加いただくなのは東京近辺にお住まいの方(神奈川は勿論千葉埼玉からも)が参加いただいております)に限られてしまいますが、興味のある企画を選んでお気軽にご参加なさってみてはいかがでしょう。

主な活動は十月の総会(午前)と講演会

(午後)、年に二回(六月と十一月)の読書会(昨年・今年は宮坂学長の「芥川を読む」)、そして一月の新春歌舞伎観劇です。他に春のお花見、江戸めぐり、近郊散策などを時節にあわせて企画しております。ちなみに今年十月中旬の総会、午後の公演には落語家入船扇遊師匠をお迎えする予定です。これまで大学の先生方の講演、ピアノコンサートなどいろいろ企画してまいりましたが、時には変わった分野からゲストをお呼びするのも良いかと、初めての試みです。午後のひととき皆様と一緒に大いに笑わせていただきましょう!

東京支部も役員を含めて会員の高齢化が進み、若い同窓生の入会や、役員として協力して下さる方が少ないのが今後の課題です。支部のことをもっと多くの方々に知つていただき、楽しく有意義な時間をぜひ共有できたらと役員一同願っております。

支部長 多賀 礼子

関西支部幹事 垣生 恵子

### 関西支部

昨年の関西支部同窓会は、例年通り十一月の第二水曜日(十日)に、神戸市の北野ガーデンで行われました。前年とは打って変わつて好天に恵まれ、常連の方、始めての方、共々に楽しいひとときを持つことができました。

神戸は母校のある横浜に似て、坂の多い美しい港町ですが、北野ガーデンは、北野坂に面した趣のある洋館で、落ち着いた雰囲気のホールと緑豊かな中庭が、心地よく感じられました。

ミニ札拌、乾杯、会食と進んだところで素敵なサプライズがありました。岩崎さんのご尽力により、音楽学部ピアノ科教授の落合敦先生を特別ゲストとしてお迎えすることができました。

先生は大学でのピアノ教室の他、コンクールの主催、ご自身の演奏活動など幅広く活躍されていますが、ピアノは勿論のこと、お話の面白さでも定評があります。関西のご出身とお聞きして、一瞬もしかして吉本?と思ってしまったほどの爆笑トークで会場をわかれました。

演奏はクラシックからポピュラー、ジャズまで自由自在で、ただもうウットリ。大勢の方が「感激しました。来て良かった」と言つて下さいました。

最後に東日本大震災の被災地の復興を祈りつつ、「For Others」の精神を守り続けていきたいと思います。

支部長 伊藤 和子  
(音楽科24期卒)

### 西南支部

主の御名を賛美致します。

同窓会の皆様、お変わりなく健勝にお過ごしのことと存じます。

西南支部は、白菊会、りてら、りべるて、Fグループと毎年順番に当番幹事をお願いし、お陰様で、秋に合同の同窓会・総会を開催しております。

昨年は、十一月四日に福岡の大濠公園が「望出来る花の木」のレストランで開く事が出来ました。大学より宮坂覺長先生、そして国際交流部教授の高柳彰夫先生をお招きする事が出来ました。宮坂学長先生のキリスト教初、キダー先生の思いが「四〇年間フェリスの伝統を覚えて歩んで行く。」と力強いメッセージに聞き入りました。又、高柳先生からは、「地域からの国際協力」(福岡と神奈川)の題で、アジアを意識された興味深いお話が学びの時となり、とても新鮮な思いが致しました。その後、ハンドベル演奏を披露させて頂き、校歌を歌い閉幕となりました。

大学や時代を越えて、お交わりが出来、とても和やかで楽しいおしゃべりに時を忘れ、喜びと感謝で御努力の賜と感謝でした。

今年も秋に予定しております。幹事は家政科の方々にお願いし、役員共々皆様の暖かい御協力に感謝しつつ準備を始めております。

白菊会会長 服部ひろ子



### 白菊会より

一四一年目の歩み

大学同窓会の皆さまお健やかにお過ごしのことと存じます。

いつも白菊会へご理解、ご協力を下さいまして心から感謝申し上げます。

日々の交流を通じて、大学同窓会の皆さまと心を一つに合わせ、一五〇年をいましてしっかりと歩んでまいりたいと思いましておりります。

皆さまの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

### 《しらぎくティータイム》

#### “フェリス女学院創立140周年記念 クリスマス礼拝”ビデオ上映会

- 日 時：9月24日(土) 10:30
- 場 所：カイバー記念講堂
- 申 込：フェリス白菊会
- TEL. FAX. 045-641-5200 (火・木)
- 会費無料

## ●同窓会は外国にもあります

- ニューヨーク事務所  
Mrs. Rakuko Kuwayama  
136 West 24 St. New York, N.Y. 10011 U.S.A.  
TEL 212-675-3840
- ハワイ事務所  
Mrs. Chizu Hatakeyama  
3043 Hollinger St. Honolulu, HI.  
96815-4211 U.S.A.  
TEL 808-735-1296 FAX 808-735-1579
- カリフォルニア事務所  
Mrs. Junko Yokota  
3117 Mabury Rd. San Jose, CA. 95127 U.S.A.  
TEL 408-923-4632 FAX 408-729-5669

2010年度 フェリス女学院同窓会連絡会 会計報告  
(2010年4月1日～2011年3月31日) (単位 円)

前年度繰越金	963,921
同窓会連絡会維持費	280,000
白菊会	(70,000)
りてら	(70,000)
りべるて	(70,000)
Fグループ	(70,000)
利 息	239
小 計	280,239
収 入合計	1,244,160
小塩理事長お見舞い金	30,000
送料	560
支部総会お祝い金	60,000
東京支部	(20,000)
西南支部	(20,000)
関西支部	(20,000)
岡野学院長退任感謝金	200,000
支 出合計	290,560
次年度繰越金	953,600

翌年度繰越金は、953,600円です。

以上、ご報告申し上げます。

2011年5月 会計:Fグループ 木林

# クリスマス礼拝のご案内

《日 時》

2011年12月10日(土)

午前 11:00～

《場 所》

カイパー記念講堂



## 創立140周年記念クリスマスの献金先

合計599,429円

### 義 援 金

同窓生	506,838円
一般(理事・評議員・監事・維持終身会員・元教職員)	41,000円
中高保護者	8,141円
教職員	43,450円

### 【送金先】

日本赤十字社

599,429円

## 震災被災者への支援状況



東日本大震災で被災された全ての方々に、心よりお見舞い申し上げます。同窓会会員の中に犠牲となられた方がいらっしゃると伺っておりますが、そのお一人おひとりの御靈の上に、そして御遺族の上に、慰めと平安をお祈り申し上げます。

横浜の地も、大きく揺れました。緑園キャンパスでは、年度最後の評議会と教授会が開催されたいた関係で殆どの教員と、クラブや新入生を迎える準備をしていた上級生リーダー等、約五百名の学生が活動しており、足止めされた約百名の学生が、体育館で一夜を明かしました。山手キャンパスでも数名の学生が足止めされました。また、両キャンパスとも翌日の午後には、全員が帰宅の途につきました。その後も計画停電等の影響と、学生および席列される方々の安全を鑑みて、卒業礼拝、学位授与式、入学式等の式典を中止し、四月中は、九〇分の授業時間を六〇分に短縮するなど、例年とは異なる対応を余儀なくされました。

幸いにして、二〇一〇年度の卒業生、二〇一一年度の新入生、そして在学生全員の無事が確認されました。しかし、父母・祖父母の方の人的な被害が一件、地震や津波、原発事故の影響で自宅に住むことができないといった被害が四件、その他自宅の一部損壊などを含めると、六月末時点まで八名の方から、何らかの支援措置を希望する旨の申出を受けております。

大学としては、学生の父母等保証人によって構成される「奨学会」と共に、それら被災された方々に御見舞金をお渡しすると同時に、修学費を支援する授業料・学費納入金の免除制度と、生活を支援する月額三万円の給付奨学金(返還の必要な奨学金)制度を新設し、被災者の経済支援を行っております。この二つの制度は、卒業までの支援を目的とし、二〇一一年四月の時点で在学している学生に対して、標準修

業年限の間は、必要に応じて引き続き支援を受けられるものとしました。

修学の支援について、大学の予算執行を抑制することで、その原資を貯蓄する計画であります。生活の支援については、学内外の関係者からのお申し出もあり、学院のモットーである「For Others」の精神を実践するためにも、関係各位からの厚志を以て充てる基金設立を計画し、七月初旬から新たな募金のお願いを始めたところであります。前述のとおり、最長でこの四月に入学してきた学生が卒業年度を迎えるまでの四年間と少し長い期間にわたり、厚志を募ることとなります。同窓会の会員各位におかれましては、その趣旨をお酌みいただき、御協力をいただければ幸いです。不明な点等がございましたら、大学事務部總務課(四五・八一二・八二二二)までお問い合わせください。

まだまだ先行きの見えない状況であると同時に、本誌が皆様のお手元に届くころは、盛夏のたま之中から存じます。どうか、御自愛くださいませ。

三月の卒業式は東日本大震災の影響により中止となりましたが、同窓会にて、一〇二、〇〇〇円で複数口のご協力をお願いいたします。

## 二〇一〇年度新入会員

### （同窓生の皆様へ）

三月の卒業式は東日本大震災の影響により中止となりましたが、同窓会にて、一〇二、〇〇〇円で複数口のご協力をお願いいたします。

● 文 学 部  
● 国際交流学部  
● 音 楽 学 部  
● 大 学 院 人文科学系研究科  
国際交流研究科  
音楽研究科  
20名

の卒業生をお迎えすることができました。

